

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890500028		
法人名	医療法人 幕内会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 たなごころ	ユニット名	
所在地	〒315-0037 茨城県石岡市東石岡5-1-31		
自己評価作成日	平成26年6月27日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_021_kihon=true&JigyosyoCd=0890500028-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年8月21日	評価機関 決 済 日	平成27年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様の状態を短期間又は長期間にわたり、軽度から重度化している過程を把握してサービス利用に勧めます。緊急時及び急変時には、母体である山王台病院に受診し利用者様、御家族に安心したサービスを提供することが出来、透析患者様の利用も可能になります。特別養護老人ホームようようとの連携により、在宅生活が困難になった利用者様や御家族様にも長期にわたり利用して頂けるよう図っています。法人内勉強会や外部研修へ参加し、介護及び医療面についての知識向上に努めスキルアップを図り、介護技術を磨きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は国道から裏道に入った閑静な住宅地に立地しており、協力医療機関である病院が玄関から見える位置にある。
隣接する同一法人の介護老人保健施設で行われる夏祭りでは、利用者と職員が一緒に参加して手縫いで制作したランチョンマットやシュシュ（髪飾り）、巾着などをバザーに提供し、収益金は東日本大震災の義援金として寄付するなど、社会活動に貢献している。
代表者のこだわりである笠間焼きや民芸品、絵画などが所々に飾られているほか、居室の壁紙やカーテン、絨毯などにも和のセンスが反映されて事業所全体がお洒落な空間となっている。
浴室は窓を開けると竹垣が見え、檜造りの浴槽が3ヶ所設置されており、曜日や時間に関係なく何時でも入浴が可能となっている。
職員の提案により、玄関の施錠は音楽付きのセンサーを取り付けることで解除になるなど、管理者は常に職員の意見等に耳を傾け、利用者のサービスの質の向上に反映させている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議や勉強会を月に1度実施し共有している。実践するために、話し合いの場を設けている。新人職員には、研修等も設け理念を掲示し共有にも努めている。	事業所開設時に代表者が地域密着型サービスの意義を踏まえて作成した「たなごころ運営目的」を基に理念を作成し、玄関に掲示している。 管理者と職員は月1回の職員会議で理念を共有し、実践につなげているが、文章が長いので職員は覚えづらい。	理念をもう少し簡略化して職員が覚え易い文に変更するか、変更しない場合は毎朝のミーティングなどで唱和したり、職員のネームカードの裏側に理念を携帯したりして随時確認が出来るよう検討することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントの参加、施設や法人内行事に地域の方に参加頂いている。ボランティアやヘルパーの実習受け入れ、保育園児との交流も行っている。	利用者は職員と一緒に地域の祭りに出かけた、盆踊りに参加したり、市の娯楽施設「ひまわりの館」のバザーを見学に出かけたりして地域の人々と交流している。 隣接する同一法人の介護老人保健施設に近隣の保育園児が訪れた際や、石岡の祭りの獅子舞が立ち寄った際に、利用者と職員が一緒に見学に行っている。 近隣住民が野菜のお裾分けを持って来訪したり、中学生の職場体験学習や福祉専門学生の実習、年に3回日本舞踊や腹話術のボランティアを受け入れるなど、日常的に地域と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等にて、理解や支援の方法について説明している。行事の際にも介護方法を実際に見て頂いている。介護教室等の案内を掲示し送付している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者状況、活動内容や報告、事故防止等の意見を頂き改善に努めている。市からの情報、地域からの情報又は意見を聞きスタッフ会議にて報告し、サービスの向上に活かしている。議事録を作成し、ご家族に送付している。	運営推進会議は2ヶ月に1回家族等の代表や市職員、民生委員、地域住民の代表、同一法人が運営している在宅介護支援センター職員などで開催し、利用者の生活の様子や運営状況、行事報告などを行ったり、地域密着型介護サービス事業所協議会で行われた研修内容を報告したりしている。 地域住民の代表者から、ドライブレコーダーの設置を提案されて検討するなど、出た意見等は職員会議で検討して、サービスの質の向上に反映している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者には、サービス内容についての相談をし、協力を仰ぎアドバイスを頂いている。地域密着協議会で、市担当者や他事業所と情報交換をしている。	管理者は市担当者と一緒に市内の地域密着型介護サービス事業所協議会に出席するほか、直接市に出向いたり、電話などで日頃から連絡を密にとって入居状況やサービスの取組みを伝えたり、パンフレットを届けて置いてもらったりしている。 市からは敬老会等の高齢者に関わる行事の情報を得るなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加のほか、スタッフ会議にて勉強会のを設け正しく理解し、意識づけるよう取り組んでいる。やむを得ない場合は、ご家族へ説明し、同意を得て経過を記録している。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成し、全職員対象に内部研修を行うほか、月1回開催する職員会議時に身体拘束に関する勉強会を行い、身体拘束の内容とその弊害について理解し、実践をしている。 やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、同意書などの書類一式を整備している。 事業所前の道路は狭く交通量も多いが、玄関を含め施錠をしていない代わりに音楽付きのセンサーを設置し、利用者が戸外に出る場合は直ぐに職員が同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加し、持ち帰り勉強会を実施している。又は職員が受け持ちで調べ勉強会を開き、正しい理解と徹底した意識の共有、周知をし虐待防止と早期発見に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、勉強会を開きスタッフの理解を深めるようにしている。参加した職員は報告書を提出している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、ご家族の立場に立ち時間をかけて丁寧な説明をしている。利用料金、事業所内のリスク、医療連携体制については、資料を用い慎重に説明をし同意を得ている。疑問等は随時受け付けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活場面で、利用者様、御家族と関わりながら要望、苦情等を伺い記録に残し、会議で意見交換をしている。年に1回御家族にアンケートを実施し運営に反映させている。	玄関に意見箱を配置したり、年1回家族アンケートを実施するほか、利用者からは日常の会話の中から、家族等からは来訪時や電話連絡時、連絡帳などで意見等を把握している。 家族等から「外出や事業所内の行事を増やして欲しい」との意見を受け、月2回の外出や流し素麺などの行事を実施しているほか、送迎担当が若い職員の場合、なかなか話を聞いてくれない利用者もいるため、熟練の職員に変更するなど、出た意見等は職員会議で検討し、サービスの質の向上に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1日2回の申し送り、スタッフ会議、個別面談、接遇チェック表を通しスタッフからの意見を反映させ、運営の向上に繋げている。	管理者は年2回個人面接を行うほか、朝と夕の申し送り時や日常業務の中で、随時職員から意見等を聞いている。 利用者の楽しみを増やすため、ボランティアの来訪を提案して社会福祉協議会に問い合わせた結果、年に3回フラダンスや腹話術などのボランティアの来訪を受け入れ、利用者の楽しみとなるなど、出た意見等は積極的に取り入れ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により個々の目標や課題、勤務体制、臨機応変な対応等の調整を話し合い面談にて評価をしている。管理者より代表者に職員が向上心を持って働けるよう努力や実績、勤務状況の報告もしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が日々の体験を学び、繋げていく為に様々な研修、勉強会に参加し受けられるようにしている。研修を受けた職員は、研修報告書を作成し会議で報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の地域密着協議会において、学習会や交流会を持つことにより仕事の悩み、ストレス解消法や事例検討会等を通して、地域の同業者とのネットワークを結び地域全体としてのサービス水準向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人を主体とし、ご家族と生活状況身体状況等の話し合いの場を設けている。自宅と事業所を上手く利用しながら、ご本人が理解し納得されるまで関わりを多くし、職員はご本人の思いを理解し受け止め、安心した利用が出来るよう信頼関係を築きながら支援をする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のこれまでの経緯や要望の話し合いを十分に行ない、求めている思いに配慮しながら支援に努めている。ご本人の生活状況を連絡箋や電話、来所された際に報告し御家族の困っていること、不安なことを話し合いながら信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最も必要としていることに対し、可能な限り対応が出来るよう、他サービスの利用を調整し連携を取り対応している。ご本人に必要なサービス内容を組み立てた支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側される側と決めつけず、尊敬心を持ちながら暮らし支え合う関係を築いている。職員は利用者様から学び、共感し共有できるよう細かな対応を工夫してる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子や思いを、御家族へ密に伝え情報交換をし、自宅と事業所での生活を支えながら共に支援してる。ご本人、ご家族、職員の思いを常に考え伝えながら関係を深めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から続けている生活習慣、社会や人との繋がりを把握し大切にしている。馴染みの交流が途切れないように外出の支援、送迎を行っている。	利用者の友人や知人が来訪した際には、居室や居間など利用者が希望する場所でゆっくり会話ができるようお茶を出している。 職員は利用者の希望にそって、行き付けの理・美容院やスーパー、薬局などに同行したり、墓参りや外泊は家族等の協力を得たりしながら馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係や相性に配慮をしながら関係作りの支援に努めている。お茶、食事の時間も一緒にとることで共有し、日々の変化を見逃さないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後も何らかの問題や相談があった場合には、いつでも気軽に来所ができるようご家族に話をしている。相談があった際には、長期的に継続できる関係作りをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わりの中で、ご本人やご家族の希望や意向を踏まえ把握に努めている。ご本人のその時々で、最も良いと思われる支援を心掛けて状況に応じた検討もしている。	家族等からの情報により利用者の生活歴を把握するとともに、日常の関わりの中での会話や行動などから思いや意向の把握に努めているが、把握した内容を個人記録に残して全職員で共有するまでには至っていない。 意志疎通が困難な利用者の中には、家族等から話を聴くほか、仕草や表情などから思いや意向を汲み取り、利用者本位に検討している。	日常の関わりの中での会話や行動などから利用者の意向を把握した場合には、個人記録に残して全職員で共有することを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴、生活環境を把握しプライバシーに配慮しながら、サービス提供への必要性を理解して頂き、一人ひとりの価値観を大切にした対応に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活リズム等を職員間で情報交換することにより、多くの視点でご本人の心理を把握した対応に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時々を職員間で話し合い、スタッフ会議にて方向性を検討し介護計画に反映している。利用者様一人ひとりに担当職員を決め、毎月モニタリングを行い状況を把握し、課題やケアについて検討し、計画を作成している。	介護支援専門員は利用者の自宅を訪問したり、事業所で利用者や家族等と話し合って課題や意向を把握するとともに、医師や職員会議での意見等を取り入れて個々の希望にそった介護計画を作成している。 毎月のモニタリングと短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は随時モニタリングを実施し、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	容態や精神面等、気付いた事や出来事も記録に残している。申し送りノートを活用し情報の共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通いを中心とし、訪問、宿泊、緊急時の対応等、機能を生かした柔軟な対応に努めている。ご本人、ご家族の要望を取り入れサービスの幅を広げた提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の祭りや福祉祭へ参加、ボランティア団体や、学生のボランティアの受け入れも行い協力を得て生活を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望により、定期受診や緊急受診、他院受診の付き添いをしている。連絡箋や電話、送迎時にご家族へ報告し、状況に合わせた診療体制をとっている。母体が病院の為、協力医療機関となり往診も可能で、24時間利用者様を支えることが出来る。	協力医療機関のほか、利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援している。 受診結果はその日のうちに家族等へ電話で報告するとともに、利用者毎の記録と申し送りノートに記載し、全職員で共有している。 運営母体が協力医療機関であり、24時間対応が可能となっているほか、通院ができない利用者には、協力医療機関の医師による訪問診療が受診出来る体制になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の既往歴、症状等を看護師と話し合い対処しながら連携し、バイタルチェック、体調管理に努めている。バイタルチェック表、食事、水分、排泄表を活用し一人ひとりに応じた支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携し、ご家族と情報交換を行い、利用者様を頻繁に見舞い精神的に支援している。ご家族、医師と相談しながら退院からの介護サービスがスムーズに行くように入院中の情報提供をもらい、早期の復帰に役立っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員は、外部研修への参加や勉強会を行なっている。重度化に関する指針を説明し、終末期に向けた方針、対応マニュアル、ご家族との同意書を作成し、ご本人、ご家族が納得できる最期が迎えられよう支援に努めている。	重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を作成し、契約時に利用者や家族等に説明している。 職員は看取り介護に関する外部研修や内部研修を受講している。 利用者の状態が変化した場合、家族等や医師を含めた関係者で話し合い、「看取り介護（終末期ケア）の方針」を説明するとともに、同意を得ている。 事業所では過去に看取り介護を支援した経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での医療勉強会へ参加し、スタッフ会議にて勉強会を開き知識を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力による災害避難訓練、夜間避難訓練を定期的に行なっている。地域密着協議会、運営推進委員の緊急連絡網を作成し協力体制を築いている。備蓄一覧表を作成し食糧品、衛生用品等を保管している。隣接する法人にも備蓄をしている。	年2回夜間想定を含んだ避難訓練を実施しているが、地域住民の参加を得られていないことと、実施記録に参加者名や所要時間を記載するまでには至っていない。 訓練実施後に職員会議で反省点を話し合い、記録に残して次回の訓練に活かしている。 災害に備えて米や飲料水、煎餅、クッキー、衛生用品、発電機、石油ストーブなどが屋外の倉庫に保管され、備蓄品一覧表を作成しているが、定期的に点検した記録が残されていない。	避難訓練後は実施記録に参加者名や所要時間を記録に残し、次回の課題へつなげるとともに、地域住民の参加を得るため、運営推進会議等で呼びかけることを期待する。 備蓄品一覧表には品目や数量、賞味期限、点検日などを記載することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の目的を契約時にご家族に説明し、写真の掲示や掲載の同意、理解を頂き署名、捺印をもらい事務所内にて保管している。職員は勉強会を行いプライバシーの確保や人格を尊重した対応に努めている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、名前の呼び方や言葉遣いのほか、利用者への対応に配慮して支援をしている。 写真や広報誌への掲載については、利用者や家族等に個人情報の利用目的を説明して同意を得ている。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや訴えを出来る限り見逃さないよう、日々の観察の中から常に気持ちの状態を職員が感じ取り、尊重し対応にあたっている。常に一人ひとりに言葉かけを行い支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのリズムに合わせて、望む過ごし方の支援に努めている。職員間で話し合い、出来る限り柔軟に利用者様の希望を尊重した対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様のこだわりや価値観を大切に、馴染みの理美容室や行きつけ店への買い物の付き添いをし、これまでの生活を大切に支援している。ご家族に協力して頂き、自宅で長年愛用していた小物等も持ち込んで使用している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの喫食状態を把握し、嫌いな物は代替し工夫した食事の提供をしている。畑で収穫した野菜の調理や、食事の準備、後片付けを共に行っている。職員も一緒に食事を摂ることで、食欲状態、誤嚥防止に注意している。行事等での外食も行っている。	宅配業者による献立の食材が届き、職員が調理をしている。 事業所の自家菜園で職員と利用者が収穫した茄子やきゅうりなどの野菜を食材に取り入れ、季節感のある食事を提供しているほか、年4回の行事食や外食を月2回実施するなど、食事が楽しめるように支援をしている。 隣接している介護老人保険施設で催される祭時に提供される、焼そばやたこ焼きも楽しみとなっている。 利用者は下膳やテーブル拭きのほか、行事食のいなり寿司のご飯を詰めたり、たくわんを切るなど、できることを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表、アセスメントを使用しバランス調整、体重測定をしている。常食、刻み、脂抜き等の工夫をし、温かいものと冷たいものに配慮し、自宅に近い使用しやすい食器類を取り入れて、家庭的な食卓を心がけている。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた口腔ケアを使用しやすいコップや歯ブラシで実施している。自分で行える方には、声掛けと見守りにて対応し、介助の必要な方には一緒に歯ブラシを手に取り磨いている。定期受診のほか、協力医療機関の往診もある。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握しアセスメントを行い、身体状況に合わせ気持ちよく排泄が行えるよう声掛けし、トイレ誘導をしている。排泄チェック表を使用し状況、状態に合わせリハビリパンツとパッドを使い分け使用している。	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しながらタイミングを見計らってトイレ誘導をし、日中は殆どの利用者がトイレで排泄をしている。 排泄の自立に向けた適切な支援により、利用者全員が昼夜を通してトイレで排泄しており、現在はリハビリパンツを使用している利用者はいないが、オムツを使用している利用者はいない。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、排泄状況を把握している。リハビリ体操や個別レクを行い、おやつに繊維質を取り入れ、下剤等を使用せず自然排便を促す工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に沿い入浴したい日や時間に合わせ、仲の良い利用者様同士で入浴ができるよう支援している。季節に合わせて柚子湯、菖蒲湯、入浴剤を使用し工夫をしている。水分補給が出来るよう冷蔵庫を設置、化粧水、乳液等の小物を用意し自由に使用して頂いている。	利用者の希望にそって毎日いつでも入浴が可能となっており、昼夜を問わず自由に入浴することができる。 脱衣所には化粧水や乳液のほか、入浴後の水分補給のために冷蔵庫に冷水が準備されている。 柚子湯や菖蒲湯などで季節感を取り入れ、冬は入浴剤を利用して温泉気分が入浴が楽しめるように支援をしている。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、職員を替えて声かけをするなど、工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使用していた布団等を持ち込んで頂いたり、日中の活動を促し生活リズムを整えるよう、チームで取り組んでいる。寝付けない時はお茶を飲んでもらったり職員と話をしたり、休める環境を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の処方箋ファイルを作成し、内容、目的、用法、用量、副作用を必ず確認し薬の内容、状態等に変化がある場合には医療機関との連携が図れるようにしている。誤嚥防止の為に3回チェックを行い、服薬時にはご本人が飲み終わるまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活習慣を把握した上で、楽しみや役割を個別に支援し、意欲が引き出せるように努めている。厨房に入りお皿洗い、おやつ作り、作品作り、畑作業、洗濯等、個別役割をお願いし支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が毎月行事計画を立て、利用者様の希望に応じ、散歩、ドライブ、外食、買い物等に外出している。地域のイベントや法人の行事に参加することにより気分転換を図っている。	利用者の希望を取り入れて八郷のフラワーパークやぶどう狩り、笠間稲荷などの観光地に出かけ、利用者の五感を刺激して季節を感じながら気分転換ができるように支援をしている。職員は利用者の希望にそって近くの移動パン屋やスーパーに出かけられるように支援をしている、担当職員が年間外出計画と報告書を作成している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に説明し1万円まで預かり、ご本人が自由に使えるようにしている。出納帳を作り、管理しご家族へ定期的に報告をしている。必要な物などはご家族に確認を取りながら購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら、電話をかけやすい環境を整え取次ぎを行っている。手紙や贈り物など自由にやり取りが出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物や花を飾ったり、広い窓からは緑豊かな自然が眺められるようになっており、季節感を出している。サンルームでは猫が動き回り動物の癒し効果を取り入れている。居室や廊下に椅子を置いたり、和室に掘り炬燵がありいつでも休憩ができるように配慮している。	玄関や床の間、廊下の飾り棚に壺や民芸品が飾られたり、廊下には着物や羽織を再利用して利用者が制作した絆纏などの小物や、絵画が飾られたりしている。共同空間は外気を取り入れられるように天窓が設置され、居間に隣接する和室には掘炬燵や職員と利用者が制作したパッチワークの花をあしらった暖簾があり、落ち着いた和の空間を感じさせている。居間や廊下には2人がけのベンチや椅子が配置してあり、利用者が自由に寛げるように配慮をしている。利用者はサンルームから見える自家菜園の野菜を眺めたり、お茶を飲んだりして居心地よく過ごしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性などに職員が配慮し、テーブル、イス、ソファの配置や模様替えを行っている。マッサージチェアを置き好きな時にゆったりと過ごせる工夫をしている。好きな場所で過ごせる環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋ごとに壁紙やカーテン、カーペットが異なり、ご本人、ご家族から情報を取り入れ和室と洋室を使い分けている。過ごしやすいように、愛用品や馴染みの物を持ち込んで頂き居室を自由に使用して頂いている。	宿泊の部屋は和室と洋室があり、壁紙やカーテン、カーペットは部屋毎に異なる内装になっており、和室には押し入れ、洋室にはクローゼットが備え付けられている。 ベッドや整理箆筒、エアコン、トイレ、洗面台が備え付けられており、利用者は使い慣れた寝具やカレンダー、ぬいぐるみ、小物などを自由に持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で安心した生活が送れるよう、手すりを多く取り入れている。和室の縁側には適度な段差があり、高齢者の平均身長に合わせ、上り下がりできるようになっている。段差とスロープを組み入れ自宅に近い環境にしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護事業所 たなごころ

作成日 平成27年2月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有が出来ていない	職員全員が理念を共有し実践につなげる	毎朝のミーティング時に唱和し理念の共有に努める	三か月
2	23	思いや意向の把握が出来ていない	利用者の意向を全職員で共有し利用者本位のケアに努める	日常生活での会話や行動を個人の記録に残して全職員で共有する	三か月
3	35	避難訓練の実施記録や備蓄品一覧表に不備がある	問題点を把握して改善に努める	詳細を記載し次回の課題へ繋げる	三か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。